

2022年6月29日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ 歴史の検証』 ——“ゼロから”の積み重ねによる社会変革——

第112回 河合 純一 氏

(日本パラリンピック委員会委員長)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：渡邊一利）では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のインタビューをもとに、スポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ 歴史の検証」に掲載しています。

現在のテーマは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」。昨夏に行われた2020年東京大会に尽力された方々が、それぞれの立場・視点で大会を振り返ります。

今回登場するのは、水泳（視覚障害）でパラリンピック6大会連続出場したレジェンドであり、2020年東京パラリンピックで日本選手団団長を務めた河合純一氏。コロナ禍で開催された大会で得られたレガシーとは何か、コロナ禍だからこそ生きたパラリンピアンたちの実体験などのほか、パラリンピックのハイパフォーマンス化など、日本のパラスポーツ界について語ります。また、アスリートのセカンドキャリアやスポーツと社会についての見解も紹介。ぜひご一読ください。

「“ゼロから”の積み重ねによる社会変革」 河合 純一 氏

【公開日】2022年6月29日（水）

【URL】https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/112.html

「スポーツ歴史の検証 インタビュー」で検索ください！

【主な内容】感動を呼び起こした選手の真摯な姿と感謝のコメント／コロナ禍で生きたパラリンピアンの実体験／変化を恐れない社会の実現に向けての一步に／求められるすそ野拡大につながるハイパフォーマンス化／求められるスポーツ界と企業とのwin-winの関係性／小さな一步の積み重ねによる共生／パラスポーツの重要性



《プロフィール》

■河合 純一（かわい じゅんいち）氏

1975年生まれ。5歳で水泳を始め、15歳で視力を失う。1992年バルセロナ大会でパラリンピック初出場を果たし、以降2012年ロンドン大会まで6大会連続で出場し、金メダル5個を含む計21個のメダルを獲得。現役中の2002年に日本パラリンピアンズ協会を組織し、会長に就任する。2020年より日本パラリンピック委員会委員長。2016年、日本人初の「パラリンピック殿堂」入り。

■佐野 慎輔（さの しんすけ）氏 / インタビュアー

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、笹川スポーツ財団理事／特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

＜スポーツ歴史の検証＞概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会

【特別協力】株式会社アシックス